

(調査の窓)

商業調査の審査を顧みて

二年ごとに行われる商業調査は、本年は去る7月1日現在で全国一斉に実施された。

本県においても県下600余名の調査員および市町村関係者の活躍によって、各商店から3万2千余枚にのぼる調査票が市町村に提出され、ここで調査区順に整理審査を行い、さらに水戸、土浦、下館の各支庁に収集された調査票はここで綿密に照合審査の上、調査票甲、(法人組織の商店および個人商店で常用労働者を使用しているもの)乙(個人商店で常用労働者を使用していないもの)および準備調査名簿が、9月上旬一括して県に提出された。

県では、数名の担任職員によって連日再審査が行われ去る10月30日調査票の整理を滞りなく終つて通商産業省へ提出した。

ここに調査開始以来、広く各商店を訪問して、調査票の配付収集、および記載要領等の指導にあたられた現地調査員各位、ならびに市町村、各支庁統計係員の並々ならぬ御努力に敬意を表すると共に、よくこの調査の趣旨を理解されて、快く協力された県下の各商店関係者に対する心からお礼を申し上げる。

さてここに審査を終了しこれを顧みて、その結果を下表のように取りまとめた。この表に示すように、記入誤りと思われた最高は、なんといつても調査項目7業名の年間総販売額に対する割合と、15商品販売額の販売先別割合が一致しないことと、年間販売額と営業支出額の不均衡であつた。ただこの中で営業支出額中、その他の営業支出額については、どこまでがこれに含まれるかなど迷わされた点も多少見受けられ、実際の記入については相当苦労されたことがうかがわれた。

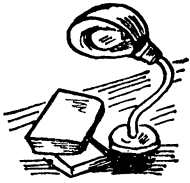
なおこの表には示されていないが、審査の格付が異つたものが約410件ありこのうちおもなものは各種商品小売業と、各種食料品小売業の格付であつた。この両者ともいわゆる通常の各種商品や、各種食料品で格付したものが多く、商業調査でいう衣食住にわたる各種の商品(前者)や、小分類(3桁)で三つ以上にまたがる食料品(後者)なりで格付されていなかったものである。これに次いでたばこおよび喫煙具小売業で他の物品の小売とを兼ねている場合たばこ(4996)に格付されたものが相当数見られた。

以上審査結果のあらましを簡単に書いて見たが、少しでも次回調査の記入や審査上の参考ともなれば幸いである。(筆者は青木商工調査係長)

昭和31年商業調査票審査結果調

甲 票		件数
照 会 事 項		
A	記入もれのもの	
	商店の開設年	9
	年間総販売額に対する割合(卸売業の場合)	1
	売場面積および商品保管施設の面積	22
	商品仕入先	3
	商品の仕入および販売方法	15
	商品販売額	11
	商品手持額	9
	手数料その他のサービス料の取入額	14
	営業支出額	7
	その他の項目	12
B	不審と思われる事項	
	経営組織	1
	業態の記入がおかしいと思われるもの	13
	業名不詳のもの	44
	従業者数不審のもの	12
	年間総販売額に対する割合と商品販売額の販売先別割合の不一致	159
	年間販売額と営業支出額の不均衡	112
	手数料その他のサービス料の記入が不審に思われるもの	9
	対象外となつたもの	16
	その他の項目	11
C	合 計	480

乙 票		件数
照 会 事 項		
A	記入もれのもの	
	商品販売額等	12
	商品手持額の商品販売額に対する割合	4
	業名記入もれ	5
	その他の項目	6
B	不審と思われる事項	
	業態の記入がおかしいと思われるもの	7
	業名が食料品小売等ではつきりしないもの	113
	業名が煙草小売のみの記入で不審と思われるもの	74
	商品販売額等の記入が誤りと思われるもの	10
	手数料その他のサービス料の取入額が不審と思われるもの	5
	商品販売額と商品手持額との割合が不審と思われるもの	21
	対象外となつたもの	12
	その他の項目	21
C	合 計	290



(統) (計) (用) (語) (の) (解) (説)

〔PR〕 Public Relations の略で、広告の一種であるが、たんに利益一点ばりの広告ではなく、製品や会社などの内容を親切に説明し、公衆の信頼度と理解を一層増大させるための技術である。日本でも最近この種の広告法が発達し統計資料も相当利用されている。

〔重水〕 重水素2原子と酸素1原子からなる水をいう。重水素は普通の水素原子の2倍の重さをもつた水素の同位元素で、原子炉の中で中性子がウラン 235の核分裂を進める際の減速物質として利用される。

編 集 室

◎菊の花かおる文化の日も早過ぎて7日は立冬、いよいよ寒い冬将軍がやつて来る。庭先の桐の葉も殆ど落ちてしまい一抹の寂しさを加える。農家ではもう麦播き、稲刈もすでに終つて、その跡始末やたばこ調理に大重であるが、南の漁村ではすでに米の売渡を済まして霞ヶ浦や北浦の魚取りに一生懸命である。特に帆曳網を利用するわかさぎ漁は今が最盛期で、何十隻の帆曳船が、白帆を風になびかせながら湖面をにぎわしている。日本一の生産を誇る霞ヶ浦名産のわかさぎは、こうして湖から取られ、多くの主婦たちの手によって軽く焼かれ、また煮干や佃煮にと加工されて、正月前の京浜方面へ出荷されるのである。表紙の写真は、霞ヶ浦の帆曳船である。

◎今年もいよいよ後1ヶ月余であるが、今年の日本経済は、数量景気から価格景気に移りつつある反面、投資景気の傾向が強く見られる。これは第一に消費財を中心とする生産過剰もいよいよ底をつきはじめ、物価も

横ばいの状態かやや微騰の兆候が見せ、多少インフレへの心配がある。第二は投資需要が非常に盛んなために基礎物資が不足を来し、鉄鋼などは相当値上りするのではないだろうか。ただ投資はあくまでも資源の開発や輸送力の増強などの効果的なものを選ばなければ大変である。また国民生活の消費過剰の傾向を抑制することが必要である。折角天井が低く底の浅い竹馬経済から脱出した日本経済を再びインフレの危険に追込んで戦後十年間の努力も水泡に帰してしまうからである。

(Y.N生)

統 計 だ よ り

- ★10月20日 県では労働力事務打合会を統計館で開催。
- ★10月17, 18日 関東甲信静ブロック昭和31年工業調査事務打合議が千葉県で開かれ、本県から平野課長、青木商工調査係長、森島、清水両主事が出席した。
- ★10月26, 27日 関東甲信静ブロック統計主管課長会議が山梨県から山中課長補佐、小島主事が出席した。
- ★11月6日 小売物価統計事務打合会を統計館で開催。